

マイブウ・メーノス (まあーまあー)の世界 ブラジル

ブラジルを訪問する人、ブラジルに関心のある人にお勧めする！！

梅津 久 記

## 第37話ーブラジルの噂話 (その1)

サイトで“ブラジル噂”を検索したら、wiki.chakuriti.net で面白い情報が出てきましたので、一部アレンジして掲載しております。

### 1. ブラジルの公用語は、ポルトガル語ですが

ポルトガル人より多い人口のブラジル人がポルトガル語を話していますが、ブラジル版ポルトガル語で、ポルトガル語の若干違っています、中南米でポルトガル語を話すのは、ブラジルだけです。本屋で辞書や参考書を探す時は要注意です、スペイン語(西語)が多く間違いやすい。

だが、まともなポルトガル語を話せるブラジル人は少ない、とブラジル人が言っている。

日系ブラジル人の多い静岡では、日系ブラジル人の子供に「ポルトガル語と言わないで！ブラジル語と言って！」と言われているとか、近い将来、その「ブラジル語」の方が「まともなポルトガル語」になる時代が来るかもしれない。

日本外務省が職員をポルトガル語の海外語学研修に派遣するときは本国とブラジルとは分けて派遣するらしい。

ポルトガル語に“マンコ”という言葉がある。もちろん日本語のそれとは意味するものが違うが。ポルトガル語で“マンコ”とは”不自由な”と云う意味です。ポルトガル語で“ココ”は汚い言葉になり、日本語に慣れているブラジル人ならなんともないが、悪口などではないが食事中には禁句。“ココ”は発音で完全に違う意味になってしまいます、“ココツ”と云う感じで、後ろにアクセントつけると“うんこ”となり、“コココ”と前にアクセントをつけるように発音すると“ヤシの実”となり、“アーグア ディ コッコ”でおいしい冷たいヤシの果汁が飲めます

### 2. 「ブラジルのケーキ」は甘すぎて食べられない

ブラジルでは家庭でも職場でも誕生日によくケーキが振る舞われるが、これが甘過ぎて、日本人の舌には合わない、しかし断るわけにはいかない、「ソ ポキーニョ(ほんのちょっと)」と云ってもらって、少し口に入れるしかない。くれぐれもケーキを頂く時は注意。また日本のケーキの下地(スポンジ)はフワフワで口の中で溶けそうですが、ブラジルのはゴワゴワでパサパサでなかなか呑み込めない、コココーラとかジュースと一緒に喉から流し込む感じです。

## 2. 格闘技王国ブラジル

ここ数年であるがなぜかブラジルでは総合格闘技が盛んである、週末の若者が集まるレストランやバーは、大型スクリーンに映し出される格闘技に大騒ぎである。テレビでも週末のスポーツチャンネルで必ず放映されている。アマゾンのマナウスでも「アマゾン フォーレスト コンバット」と称して2度ほど開催されている。2003年9月には日本の格闘家アントニオ猪木氏の企画で、アマゾン密林の中のアリアウタワーホテルで「ジャングル ファイト」が開催された。

極真のグラウベ・フェイトーザ、フランシスコ・フィリオ、ブラジリアン柔術のグレイシー一族など多くの格闘家があり、ノゲイラ、シウバやリョートマチダなどは、米国の国際「ファイト ナイト」で活躍している。

## 3. ブラジルは借金大国

ブラジルは借金大国でもそんな事、ブラジル政府は気にしていない。国民はもっと気にしていない。1998年には1,823億ドルの借金を抱えていたが、2005年から責務が反転し、2007年からは純債権国になり、2013年には878億ドルを抱える国になり、現在2018年でも約900億ドルを保有している。FMIからの融資依頼も受けるようになって来ている。でも政治・経済の混乱で国際収支にも陰りが出始め、何時まで持ちこたえられるか。

## 4. コーヒーの輸出国

水晶も採れるし、鉄鉱石、アルミ、ボーキサイトもどんどん採れる。農産物えは、大豆、トーマロコシ、オレンジ、さらに砂糖などでは世界一の輸出国であり、その他牛肉、鶏肉の輸出も世界1、2位となっており世界の食料供給国となっている。また小型ジ

ェット機も主要な輸出品であり、大型中型旅客機では、ボーイング(米国)、エアバス(欧州)に次いで世界第3位で、ボンバルディア(カナダ)に水をあけており、世界での中型民間航空機の保有率は、ボーイング、エアバスに次いでブラジルのエンブラエルが世界第3位となっている。日本の航空会社にも導入されている。その旅客機を作っている「エンブラエル」の幹部には日系人もたくさんいる。

もともとアルベルト・サントス・デュモンという立派な人物がライト兄弟にあと一歩遅れを取って飛行機の発明国になり損ねた、という経緯がある。「最近」どころか飛行機に関してはそこの先進国など相手にならないほどの歴史を誇る国である。

このデュモンもまたブラジルの英雄であり、例えばリオデジャネイロの空港は彼の名前と共にブラジル人に広く愛されている。

#### 5. サッカー選手も主要な輸出品

カレッカ、ジーコ、マルセリーニョ・カリオカなど。ペレは政府によって輸出禁止品目に指定されている。高級品は主にスペイン・イタリア・イギリスへ輸出される。量産品は世界中に得意先を持つが、近年日本が輸出先として人気が高まっている。最近でも、多くのブラジル人サッカー選手が海外で活躍している、名前を挙げてみたら、何人上げれるか？

#### 6. F1ドライバーも重要な輸出品

3大F1チャンプのエマーソン・フィッティパルディ、ネルソン・ピケ、アイルトン・セナの他、フェリペ・マッサなど。ルーベンス・バリチェロはスルー？いや、確かにまだチャンピオンじゃないけどさ。輸出品といえばピケの隠子…おや。加えて上で挙げているルーベンス・バリチェロに加え、ロベルト・モレノもいます。事故で死亡したアイルトン・セナの墓地は今でも観光名所の一つとなっている。

#### 8. ブラジルの首都はサンパウロでも、リオでもない、ブラジリアである

なぜ、世界三大美港の一つであるリオ・デ・ジャネイロ(グアナバラ湾)から、1000km以上も離れ、しかも“ブラジルのサバンナ”と云われる、陸地中央部の荒れ

果てた土地に首都を移したのか？当時のジュセリーノ・クビチェック大統領のカリスマ性だ、それも着工から5年で完成させた。

ルシオ・コスタ、ニーマイヤーらによる計画都市で見た目は美しく芸術性は高いが、無駄が多くて利便性が低い事この上ない鬼っ子のような街になってしまった。たしかに、遠くから見ると鳥が羽を広げたように美しいのだが、外装の手入れを怠っているせいか近くで見ると結構汚い。

首都移管の目的は3つ、1番目は多民族統一のため、国民国家を象徴するような都市を作る必要性。2番目は地理学的な戦略から、内陸部への人口を分散させる必要性、3番目は内陸部の開発。

—第38話に続く—